

寄稿

国際神経化学会 (ISN) へのお誘い

馬場 広子 (ISN Council)、池中 一裕 (ISN President)

会員のみなさんは、国際神経化学会 International Society for Neurochemistry (ISN: Web サイト URL・<https://www.neurochemistry.org>)をご存知でしょうか。

国際神経化学会 (ISN) は、1965年に Neurochemistry (いまどきの言い方に換えれば Molecular and Cellular Neuroscience) 分野の国際的な発展を目的として発足しました。The Journal of Neurochemistry (JNC: Impact Factor 4.083) を学会機関誌とし、年間数億円規模の収入を原資としてこの分野の発展および若手研究者育成のために多大な貢献を行なっています。たとえば、アフリカやアジア、南アメリカなどの新興国の主に若手研究者を対象とした様々なタイプの研究助成が代表的な活動の一つです (ISN Committee for Aid and Education in Neurochemistry: ISN-CAEN)。また、私たちに関連の深いものの一つとして日本神経化学会大会における ISN/JSN Joint Symposium があります。2012年本学会神戸大会時に取り交わされた ISN との契約により、翌2013年京都大会 (世界生物学的精神医学会国際会議と連携開催) からこれまで毎回様々な Speaker を国内外から招聘して大会のプログラムに彩りを添えています。ISN に参加している若手や学生会員にとっては、隔年で開催される ISN 大会の直前に行われる ISN School の存在が大きいかもしれません。日本からも毎回1~2名選出され、大会開催地近傍のリゾート地で3日間他国の参加者たちや講師の研究者たちと寝食を共にします。この間 Neurochemistry の最新の話題に関して勉強するとともに、自分自身の研究成

果を口頭およびポスターで発表しディスカッションします。また、JNC のチーフエディターとのラウンドテーブルディスカッションでは論文投稿に関することも学ぶことができ、将来この分野で研究者を目指す若者にとっては非常に貴重な機会となっています。初年度の ISN 学生会員は無料でそれ以降の会費は1年間15米ドルですので、School への参加の可能性も考えると国際会議への登壇門としてはお勧めの学会です。

ISN 会員の特典としては、この他に ISN 関連の大会やミーティング参加費が安い、ISN の各種 Grant 類や Award に申請できる、JNC のオンラインアクセスが無料になる、ISN メンバーディレクトリーにアクセスできる、ISN 関連ミーティングのシンポジウムやワークショップ、サテライトを提案できる、ISN 選挙や総会事項などの決定に関わることができる、ISN 理事を推薦したり推薦されたりできる、ISN 理事として活躍できる、Young Scientist Lectureship Award 候補者を推薦できる、ISN からの様々な最新情報を e-Newsletter やメールで受け取ることができる、などがあります。それぞれの特典の詳細に関してはホームページを是非ご覧ください。ちなみに、ISN 大会は2年に1回8月頃に開催されますが、ヨーロッパ、アメリカ、アジア・オセアニアなど世界各地を回ります。2010年以降では、2017年パリ、2015年オーストラリアのケアンズ、2013年メキシコのカンクン、2011年はギリシアのアテネでした。今回は、2019年8月4日から8月8日までカナダのモントリオールで開催される予定です。さらに、これまでと同様に大会の前後にはその近郊のリゾート地

で各テーマのサテライトミーティングが開かれる予定です。

ISNには、地域ごとにアメリカ神経化学会 (American Society for Neurochemistry: ASN)、ヨーロッパ神経化学会 (European Society for Neurochemistry: ESN) およびアジア・太平洋神経化学会 (Asian-Pacific Society for Neurochemistry: APSN) の3つのSister Societyがあります。上述した大会開催地は、これらのSister Societyが順番に候補地を推薦し、ISN総会で会員の意向を確認したのちに理事会で決まります。Sister Societyの会員は、手続きをすればISN会員として登録され、しかもISN自体の会費は払わなくてよいという取り決めがありますので、APSNを介してISNの会員になることを是非お勧めします(必要手続きに関してはAPSNのホームページを確認してください)。

ISNでは2年任期で執行部、4年任期で学会の使命を果たすための理事の選挙が行われますが、2017年パリ大会から2019年モンリオール大会まで国立生理学研究所の池中一裕がPresident(理事長)を務めることになりました。ISN発足以来、

日本を研究拠点とする研究者がPresidentとして選出されたのは初めてです(以前USAで研究活動を行っていた鈴木邦彦先生がPresidentを務めたことはありましたが)。2013年カンクン大会からパリ大会までは久永眞一先生(首都大)が理事として活躍され、パリ大会以降は馬場(2019年モンリオール大会まで)および小泉修一先生(山梨大、2021年大会まで)の2名が理事として池中執行部を支えていく予定です。また、上述したようなISN会員に対する様々な研究助成やミーティング等への助成の決定には、理事だけでなくISN会員から選出されたメンバーで構成される7つの委員会が関わっています。

ISNでは50周年を記念して、現在「We are Neurochemistry」というキャンペーンを実施していますので興味のある方は確認してみてください(<http://weareneurochemistry.hscampaigns.com>)。

ご自身の研究の進展と共に、今後のこの分野における全世界規模での発展を目指し優秀な若手研究者を国際レベルで育てていくために、是非ISN会員になって活躍しませんか?